

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 28日

事業所名 デイサービスセンターけあぽーと くれよん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3		用途に応じ、使い分けしている。全員が同じ部屋に集まると密になるためゲームやお絵描きは別の場所と工夫している。	勉強部屋とクールダウン部屋が個別にある良い。もうひとつ部屋があるとよい。
	2	職員の配置数は適切である	1	4	1	曜日によっては不足しているため人員配置を全体で打ち合わせをしている。	日によって不足している場面があるため人員配置の見直し、または増員を目標とする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			玄関にスロープあり、室内バリアフリーになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			職員全体で会議をしている。活動の後は振り返りをし、反省し改善案を話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			年に1度のアンケートを基に、業務の改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		ホームページや保護者の方などの目に入りやすいような場所(玄関)で公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		第三者委員を設置し、苦情等の窓口を設けている。	外部評価からの業務改善。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			社内研修、外部での研修も積極的に参加し、業務に生かしている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		独自のアセスメントツールを使用し、ニーズや課題がそれぞれに合ったものを全体で話し合った上で作成している。	アセスメントの一項目ごとの確認は不十分なため、職員間で共有する内容を検討する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			独自のアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			担当が活動案をつくり、チームで話し合いをしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			ミュージックケアやレクリエーションなど固定されないよう工夫している。	内容や曜日が固定しないよう工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			集団活動(レクリエーションや外出)と個別活動を組み合わせている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			出勤している職員で当日の動きを打ち合わせしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			在勤している職員でフィードバックや報告をしている。職員が全員そろわなかった場合には別の日に伝えるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			振り返りやすいよう記録の様式を変更し、項目を分けて見やすく工夫している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			全員で行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1		集団活動・余暇時間の過ごし方・課題・創作活動を行っている。	今後外出や公共の施設を利用することを目標。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		機会があれば児童発達管理責任者・保育士が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	2		送迎時に情報共有を行っている。	行事予定や下校時刻の把握が難しい学校もあるため、今後連携を強化していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2	3		非該当
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			保育所や事業所等、支援事業所へ見学、担当者への聞き取りをし、情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			就労移行支援会議へ情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	1	研修、見学等行っている。	連携は行っているが研修を受ける回数は少ない、今後増得ることが目標。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	3	公共の施設を共有して使用することはある。	交流できる場を設けられるとよいが、現在は難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4	1		地域の協議会は平成30年から活動が見られない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			毎回、連絡帳や送迎時に子どもの様子や状況などを伝え合っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		4	2		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に説明を実施。重要事項説明書ファイルを玄関に設置している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2		年に1度の個別面談の際にききとりをしている。	今後日頃から保護者が相談しやすい環境づくりに徹したい。子育ての相談はほとんど見られないが必要な支援ができるとうれしく考える。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	5		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			体制を整えており、保護者から相談があれば適宜対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月1回の通信の配布、、ホームページ等SNSで写真や活動内容の更新している。また、行事前には持参物等のお知らせを配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			写真や情報の掲載する際は確認をしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			送迎時の報告、言語コミュニケーションが難しい児への必要ツールを用いている。行事予定の配布、スケジュール掲示をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	5		地域住民と交流できる場を設けられるとよいが、現在は難しい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	消防士と避難訓練を実施している。職員内で把握、玄関前にマニュアルを設置している。	周知はできていないと考える、今後周知の方法検討。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	1年に1回利用児を含めてを含めた災害を想定した避難訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		代表のものが研修を受け、社内にて全体研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1		現在は拘束の必要性は感じていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	医師の指示書はないが保護者と利用時の対応、緊急等についての話をしている。全職員が把握している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		その都度記載している。	